

S11-3

嚥下訓練が遷延性意識障害患者の脳波に及ぼす影響

木沢記念病院 中部療護センター 看護部

○田中 秀美、中村 美津、石山 光枝、奥村 歩、篠田 淳

【はじめに】 当センターでは、交通事故による遷延性意識障害患者に意識覚醒の目的で嚥下訓練を行っている。意識障害患者への食へのアプローチは覚醒の促進につながると言われていたが、遷延性意識障害患者のデータはない。そこで、遷延性意識障害患者に特有な θ 波と、覚醒時の脳波と判断される α 波に着目し、安静時と嚥下訓練後の脳波を比較し、嚥下訓練後に θ 波の減少と α 波の増加がみられるか検討した。

【研究方法】 遷延性意識障害患者19名を対象に、脳波室でゼリー、飴、ガム使用による嚥下摂食訓練を行い、嚥下摂食訓練直後の脳波を測定し、安静時の脳波と比較する。

【結果・考察】 遷延性意識障害患者19名に述べ22回嚥下摂食訓練を行い、安静時と嚥下摂食訓練直後の脳波を比較した結果、嚥下摂食訓練後の θ 波の減少は12回みられ、 α 波の増加は9回みられた。嚥下摂食訓練によって、食物を媒介としての視覚刺激、看護師の声かけによる聴覚刺激、食事を感じる嗅覚、触覚、味覚の五感による様々な感覚刺激が、上行性に脳幹網様態や視床下部を経由して、大脳の知覚領野などに送られることで、 θ 波の減少と、 α 波の増加がみられたと考える。